

俳句

10月17日(土)
須崎市大谷

合田 青幹

小鳥来る野見の浦町路地多し
一湾は昔軍港紅葉散る

小笠原さちを

潮ばかりてふ
奇祭の浦に秋を訪ふ

大秋晴養殖船の行き戻り

11月21日(土)

土佐市宇佐 青龍寺

合田 青幹

一人来て大音声の冬遍路

とは言へど急磯殿し紅葉寺

吉本 伸秋

蔓ちぎれめて飄々とからす瓜

口開けしままに枯れたる百舌の誓

小笠原さちを

蒼天に散り残りたる柿紅葉

晴雲の果てを行くなり徒遍路

短歌

法隆寺金堂壁画科学調査へ

榊原忠彦

来る年は卒寿行路を歩むなり、
妻待つ在り処捜すも楽し

蘆花・藤村の詩文感こめ暗誦の
君の頭脳に一目置けり

十二壁画、法隆寺に秘めし飛鳥
の美、焼損六十六年公開へ道
(十一月十七日、朝日新聞に大特集記事)

金婚式

山本晶子

はるけくも来ぬるものかな金婚
式 祝われ今日は二人してゆく

アンスリウムの花鉢もちて金婚
式祝われたるは中川夫妻
(私達が初めて仲人をしたお二人)

五十年の夫との歩み謝しさらに
のぼりてゆかな老いの坂道

四十周年を迎えて

叶岡淑子

先達の汗と闘いありてこそわが
高退協四十周年

それぞれの四十年を踏み越えて
新しき明日へ歩み始める

聞こえ来る軍靴の響き今こそは
語り守らん憲法九条

(前号訂正)榊原さん1首目に脱字あり、
お詫びします。「歴史調査」でした。

天王テニスクラブについて
竹本 長生

た。

コートは住宅地にあったも
のを潰し宅地に変えたことか
ら、強い住民の要望があり、
現在地に移転したとゆう経緯
もあって、使用にあたり種々
制約があったが、そこは地元
の池先生ご夫妻の配慮で、按
配よく運営して頂き会員も段々
増えてきた。

平成十九年クラブ名を「遊々
クラブ」とし、内規もでき、
順調なクラブ活動へと歩み始
めた。

練習日は、原則として、月
水金とした。各係りを決め、
それぞれの任に当たってもら
い、運営も円滑に軌道にのっ

た。全盛期は正会員十五名、
特別会員が八名とゆう盛況ぶ
りだった。

しかし、年を経るごとに会
員数も次第に少なくなってきた。
寄る年波で七十五歳を越
えて休むようになる方も多く
なり、残った五く六名で「体
力保持、健康第一」を目標に
頑張ってきたが、出席者が四
名に足りずダブルスが組めな
いとゆうこともあった。そ
んな時、コートで時折顔を合
わせ親しくなった地元の方に、

参加してもらえらることになり
現在に至っている。振り返っ
てみれば、「遊々クラブ」と
して発足し、メンバーの入れ
替わりはあったがそれは又、
多くの方とのつながりを持つ
機会になり、有意義に発展し
てきたと思う。特に地元の方
にはコートの運営など大変お
世話になってる。

歳とともに、痛いところ、
かないの悪いところもあるが、
上手に付き合いながら、春は
ウグイス、夏には蝉しぐれの
声援に汗してコートに立てる
幸せをか
みしめて
いる。



三十五冊の思い出十五
シーズンⅡ
春日若宮 ささやきの小径
松山 和雄

奈良の北東、



新薬師寺から
白豪寺の裏手
を廻って高畑
の大通りを横
切ると、春日
大社の禰宜
(神官)が
「出勤」時に
通った幾本か
の「禰宜路
(ねぎみち)」
につながって
いる。大社へ
と続くこの道は通称「ささや
きの小径」とよばれ、有名な
デートスポットだそう。道
は杉や椿・櫻などの木々で覆
われ、昼間でもほの暗く、ま
わりには春日若宮をはじめと

して数多くの杜が深い緑の中
に点在し散策するにはとて
もいい。

四五年ほど前のこと、神社
形式のひとつ「春日造り」の
スライド教材を作るため重い
カメラと交換レンズを首にこ
の道を歩いて春日若宮を訪ね
た。しかし、高い垣が邪魔を
してどうしても全体像が撮れ
ない。やむなく古い木の株に
上がり、手をいっぱい高く
伸ばして片足で平衡をとりな
がらやっと撮れた。とっ、思っ
た瞬間、足元の木の株が崩れ
て危うくカメラを垣の内側に
落としそうになってしまった。
なんとかカメラは無事だった
が、その時の手首とふくらは
ぎの擦り傷がしばらくは消え
なかった。

そんな想い出を懐かしみな
がら静かな道を歩いていると、
道の曲りの向こうから聴きな
れない「何か」が軽やかなり
ズムを奏でながら近づいてく
る。何事かと興味津津に足を
進めて行くと、背負物を「スー」
と伸ばした白手袋に制服制帽
姿の衛視と幾人かの神官が歩
みをあわせてこちらにやって
来た。あの聴きなれない音は
神官の木靴がこの「ささやき
の小径」を踏み歩く音だった
のだ。

おもわず予定を変更して、
元来た道を一回の後ろをつい
て戻っていった。途中眼を開
いて音だけに集中してみたが、
初めて耳にしたと思っていた
その音は、以前NHKのラジ
オ番組「音の風景」で耳にし
たあの音だった。

しばらく、神官
たちがあちらこ
ちらの杜に礼拝
するの付いて
回ったのち、再
び大社の方に戻
ることにした。

やがて大鳥居
から本殿につづ
く参道まで戻る
と、もう「ささ
やき」は消えて、
正月の福儀や千
歳飴などの縁起物を手にした
家族連れや参道を歩く足音が、
南米の民族楽器の合奏のよう
に賑やかに聴こえ始めた。

次回 室生寺門前茶屋

「退職組合員を励まし、新加入を祝う会」
日時 3月26日(土) 18時～
場所 高知共済会館

いの町天
王コートで、
テニスを始
めるように
なったのは、
今から十数
年前のこと
になる。
会員はフ
ライデーク
ラブでお世
話になって
いた年輩組
みの五く六
名で、隠居
するよう
な格好で移動
させてもらっ